

作物栽培管理情報

令和7年9月号
大分県中部振興局 生産流通部 集落営農・水田畑地化班

水稻の病害虫防除

◎斑点米カメムシ類の防除

斑点米カメムシ類は、水稻の出穂後に成虫が圃場に侵入して穂を加害するとともに、成虫が産卵しふ化した幼虫による穂の加害により斑点米が発生します。

本年はカメムシ類について注意報も出されるなど、多発が予想されています。

薬剤による防除は穂揃い期とその7～10日後の2回行ってください。なお、防除後もカメムシの発生状況に注意し、必要に応じて追加防除を行ってください（薬剤の登録内容に注意）。



カメムシ被害粒↑

◎トビイロウンカの防除

本田移植後に海外から飛来、9～10月ごろの第3世代になると急激に増殖、1株100匹以上になると坪枯れを引き起こします。

今年は、6月15日に県内でトビイロウンカの幼虫が確認され、豊後大野市の予察灯において8月7日～11日に4頭確認されました。

8月5日～12日に九州のほぼ全域でまとまった飛来が確認されています。株元に生育するウンカ類↑
今年度のトビイロウンカの防除適期は斑点米カメムシ類の防除適期にあたる8月下旬と予測されています。



今年度はトビイロウンカと斑点米カメムシ類との同時防除が可能なため、両害虫の防除を実施していただきますようお願いいたします。

【カメムシ類、ウンカ類の防除薬剤】

薬剤名	使用時期	使用量/10a
スタークル粒剤	収穫7日前まで	3kg
スタークル豆つぶ		250～500g
ビームスタークル粉剤5DL		3～4kg
ビームエイトスタークルゾル		1000倍 60～150L

※薬剤ごとに使用時期、使用量をラベル等で確認し使用しましょう。



☆トビイロウンカ等防除技術情報

大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫対策チームホームページ

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/gijutujouhou.html>（左QRコード参照）で確認できます。

裏面へ

大豆の病害虫防除

◎紫斑病とカメムシ類防除・・・基本は2回防除

カメムシと紫斑病は同時防除しましょう！

1回目：幼莢期（多くの莢が1cm程度、9月上～中旬）

2回目：1回目の10日から2週間後

紫斑病は種子伝染します。

自家採種せず種子更新を行いましょう。



↑大豆の幼莢期

【紫斑病とカメムシの防除】 ※1回目と2回目の薬剤をかえましょう

	薬剤名	希釈倍率	10aあたり 散布液量	対象病害虫	使用時期
1 回 目	アミスター20フロアブル	2,000～3,000倍	100～300L	紫斑病	収穫7日前 まで
	キラップフロアブル	2,000倍	100～300L	カメムシ類	
2 回 目	ニマイバー水和剤	1,000～2,000倍	100～300L	紫斑病	収穫14日前 まで
	スタークル液剤10	1,000倍	100～300L	カメムシ類	収穫7日前 まで

◎ハスモンヨトウの防除…白変葉が防除の目印

ハスモンヨトウは大きくなると薬剤が効きにくくなる

ため、若齢幼虫期の薬剤防除が重要です。

日中は下葉の陰や土中に潜み、夜活動します。

ハスモンヨトウの食害による
ダイズの白変葉↓



薬剤防除は**夕方**に、**葉の両面**にかかるよう散布して
ください！

若齢幼虫のついた白変葉は
圃場から取り除きましょう

【ハスモンヨトウの防除薬剤】 ※1回目と2回目の薬剤をかえましょう。

薬剤の特徴	薬剤名	希釈倍率	10aあたり散布量 (使用量)	使用時期
脱皮阻害剤	ロムダン粉剤DL	—	4kg	収穫14日前まで
長期残効剤	ブロフレアSC	2,000～4,000倍	100～300L	収穫前日まで
	グレースシア乳剤	2,000～3,000倍		収穫14日前まで

農業情報メール配信の登録募集！

～米・麦・大豆の栽培管理情報をいち早くキャッチしよう！～

★ 登録方法 ★

配信受付（スマート申請システム）

<https://ttzk.graffer.jp/pref-oita/smart-apply/surveys-alias/nougyouzyouhou>

上記のアドレスまたはQRコードからアクセスし、メールアドレス等の必要事項を
入力してください。後日、農業情報をメール配信します。



お問い合わせ先：大分県中部振興局 集落営農・水田畑地化班 電話097-506-5791
ホームページ：http://www.pref.oita.jp/soshiki/11604/saibaikanrizyouhou.html